

2020年度第3回支部集会【中国支部】

「ウィズ/アフター・コロナ状況下での地域日本語教育について考える」 開催報告

主催：公益社団法人日本語教育学会

開催日：2020年10月24日(土) 会場：オンライン (Zoom)

参加者：一般参加者の事前登録者 189名 (会員 103名・非会員 83名)、当日参加者 148名

中国支部集会「ウィズ/アフター・コロナ状況下での地域日本語教育について考える」を、10月24日(土)に実施しました。本集会では、標題のパネルディスカッションおよび交流ひろばを行いました。新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響で、私たちの日常は大きく変わりました。対面によるコミュニケーションが制約される中で、「オンライン」が注目を集めるようになりました。依然として終息の見通しが立たず、感染拡大防止が求められる状況において、地域の日本語教育も従来とは異なるあり方が模索されています。今回のパネルディスカッションでは、新たな取り組み事例をもとに、ウィズ/アフター・コロナ状況下での地域日本語教育における「オンライン」の可能性を探るとともに、そこから見えてくる「対面」の意味についても、改めて問い直すことを目的に開催しました。本集会では、中国支部の優先受付を実施したこともあり、中国支部からは58名と多くの方の事前登録があり、他地区、海外からも含め非常に多くの事前登録、当日参加がありました。

パネルディスカッションでは、総社市役所の福武幸一さん・黒瀬啓介さん、岡山大学の中東靖恵さん、公益財団法人しまね国際センターの仙田武司さん・岩田和美さんにご登壇いただきました。岡山県総社市、および島根県の取り組みについて具体的な運営内容、行政との連携を含め、詳しいご報告がありました。約1時間のご講演の後、休憩を挟んで、全体の質疑応答(約1時間)を行いました。今回は講演中および休憩時間の前半を使って、オンラインでの質問を寄せていただき、それに対して、パネリストの方から回答していただく方法を取りました。短い時間でのオンラインでの質問募集でしたが、30件近くの質問が寄せられました。オンラインで事前に収集したので質問の整理ができ、ほぼ全ての質問にお答えいただくことができました。



その後、交流ひろばの発表に移りました。今回は1件のみでしたが、100名以上の方が参加されました。出展者が複数名のグループだったこともあり、チャットと音声での質疑応答が同時並行で活発に行われ、事後のアンケートからも参加者の満足の声が聞かれました。

今回はzoomを使ったオンラインでの実施となり、参加者の反応が心配でしたが、事後アンケートではオンラインは参加しやすかったという方が97%であり、中国支部のイベントに初めて参加したという方が75%だったこと、多くの方が事後アンケートにも熱心なコメントを寄せてくださったことを考えても、オンラインでの支部集会の可能性を感じました。

今後もオンラインと対面、それぞれに良さを生かしつつ、地域の実情に合わせた支部集会、支部活動を進めてまいりたいと思います。

この場を借りて、本集会にご参加くださった皆様、そしてご協力くださった関係者の皆さまに心より感謝いたします。

(報告者 支部活動委員：永井涼子、御館久里恵、中園博美、支部活動運営協力員：永田良太)